

# 平成20年度博物館施設評価シート結果報告

施設名	埼玉県立歴史と民俗の博物館
-----	---------------

評価基準		
十分	目標値+10%以上	5点
達成	目標値+5%以上	4点
ほぼ達成	目標値±5%未満	3点
やや不十分	目標値-5%以下	2点
不十分	目標値-10%以下	1点

資料の収集・保管	常設展示や特別展示等の充実及び人文系総合博物館にふさわしい魅力あるコレクションを形成するため、資料収集方針及び資料評価会議の指導に基づき必要な資料を計画的に収集する。また、収蔵庫の防虫消毒及びIPMも積極的に推進する。
----------	---

視点	項目	指標	目標値	評価 (見込)	特記事項/目標値の設定根拠、達成値の根拠内訳
			達成値		
資料の充実・有効活用	館有資料の拡充状況	1 館有資料の充実	90 点	5	前年度の10%増 平成19年度までの収蔵点数 113,356点
			120 点		購入18点 寄贈102点 計120点を収集した。
	館主催事業等での利用状況	2 資料の活用	3,719 点	1	館内での活用 3,669点 館外での活用 50点 前年度の3%増
			2,460 点		館内での活用 2,460点 常展担当2,460点 今年度は大幅な展示替無し 館外での活用 0点
	外部からの要請等による利用状況	3 館蔵資料貸出	88 件	1	前年度の10%増
17 件			外部からの要請により利用状況が変化する。 資料担当17件		
4 写真原板利用		399 点	1	5年間平均	
	274 点	外部からの要請により利用状況が変化する。 資料担当274点			
5 データベースの利用状況	一件	一件	1	構築中	
サービスの水準	常設展示	6 総合的な満足度(「満足」の割合)	75 %	5	全館共通
			81.5 %		調査期間：4/1~9/30(480件 内満足403件)、10/1~1/31(208件 内満足172件) 2/1~3/31(112件 内満足77件) アンケート回収総件数：800件 内満足652件
	企画展示	7 総合的な満足度(「満足」の割合)	80 %	3	全館共通
		82 %	企画展「埼玉サッカー100年」(7/19~8/31開催) アンケート回収件数：346件(内満足277件)、特別展「名もなき至宝」(10/7~11/24開催) アンケート回収件数：217件(内満足195件)、特別展「誕生 武蔵武士」(1/31~3/15) アンケート回収件数286件(内満足225件) ・アンケート回収総件数：563件(内満足472件)		
生涯学習支援	8 普及事業の総合的な満足度(「満足」の割合)	85 %	3	全館共通	
		88.6 %		調査期間：4/1~3/31 アンケート回収件数：274件(内満足243件)	
利用状況	入館者	9 年間の総入館者数	147,676 人	3	平成18年度(10年間で最高の入館者数)の10%増
			144,431 人		年度末の花見シーズンが天候不順であったため目標に少し届かなかった
	企画展示	10 企画展示の総観覧者数	94,891 人	1	前年度の10%増
63,414 人			昨年度あった、年度またぎの特展が無かった等により、目標値を大きく下回った		
生涯学習支援	11 普及事業への参加率	85 %	5	全館共通	
		113 %		4月~9月1,417人定数に対し1,993人参加、10月~1月503人定員に対し241人参加、2月~3月74人定数に対し26人参加 合計定員1,994人に対し2,260人参加	

利用状況	生涯学習支援	12	レファレンス	352	件	5	2年平均+市町村助言数（前年度10%増）
				400	件		展示関連のレファレンスが多く、目標を大きく超えた
広報	ホームページ	13	インターネットでの情報利用	83,722	件	1	平成18年度実績以上
				63,620	件		目標値を下回るもブログ等が好評で前年比6パーセント増であった
学校支援	学校利用受入	14	学校教育活動における利用数	125	校	1	前年度の10%増
				70	校		見学・体験参加54校 体験のみ参加7校 見学のみ参加9校（指導要綱見直しのため）
	児童生徒利用	15	児童生徒の参加者数（学校週5日制対応事業を含む）	7,572	人	5	平成18年度実績の10%増
				15,000	人		平日に学校行事で展示見学・ゆめ体験に参加68校 6,058人 夏休・土日祝等に個人で参加 8,942人
	学校連携	16	学校への ・職員派遣 ・資料貸出 ・連携事業	17	件	5	ゲストとしての職員派遣数 5件 教育普及資料等貸出数 7件 館内での連携事業等の取り組み 5件
				24	件		ゲストとしての職員派遣数 0件 教育普及資料等貸出数 14件 学習支援担当14件 館内での連携事業等の取り組み 10件 学習支援担当10件
ボランティア	ボランティア	17	ボランティアの活動	2,893	人	1	平成18年度実績の10%増
				2,240	人		活動日数306日 学習支援1,207人・常展1,033人
調査研究	研究成果の公開（発表会・印刷物等）	18	研究成果の公開状況	52	件	5	2件（1人あたり公開件数）×26人（学芸員数）=52件
				72	件		合計72件（資料14 常展6 特展19 企画11 学支11 副館長・主席11）
その他	施設の活用	19	開放施設の活用度	60	%	2	平成18年度（10年間で最高使用）の10%増
				56	%		利用可能日数307日のうちうち講堂・講座室利用日数173日
その他	効率的経営	20	博物館の自立度（観覧料および事業等収入）	13,346,000	円	2	20年度予算計上額
				9,621,592	円		観覧料5,166,500 ゆめ体験ひろば等3,914,929 特別利用475,900 施設利用64,200
各館別項目	市町村連携	21	市町村との職員派遣・連携事業	25	件	5	職員派遣 18件 連携事業 7件
				47	件		職員派遣 45件 特展7 資料5 学習11 企画11 副館長・主席11 連携事業 2件 特展1 常展1
	その他との連携	22	友の会との連携	19	件	5	前年度の10%増
				24	件		講演会・見学会16件 鑑の学習・体験7件 グッズ販売1件
	安全管理	24	資料管理（IPM等）	25	回	5	前年度実績以上
				30	回		特展担当3：埼大（サッカー展）武蔵野文化協会・埼玉郷土文化会（武蔵武士展）常展担当1：（建築学会）企画担当5：保護協会・埼博連・関博協・建築学会（ものづくり）・埼大（カレッジ） 月2回のIPM実施と殺虫消毒 収蔵資料管理要項・展示資料の安全確保マニュアルに基づいた管理 資料担当：30回
総合評価				合計評価点		達成度（合計評価点÷測定値設定数）	
				77	点	83%	0.83点〔77点÷（23項目×4点）〕

評価	<p>常展・特展・学習支援のお客様満足度はいずれも目標値をクリアできた。また、総入館者数においては、目標値に僅かに届かなかったが、この10年間で最高の平成18年度を超える。ゆめ・体験広場関連の普及事業の参加率は高く、定員を大きくうわまっております。当事業が県民に広く定着してきたものと考えられ、児童生徒の入館者数も増加している。しかし、総入館者数の増加にもかかわらず、観覧料収入の減少に歯止めがかかわず、また、好調であったゆめ・体験ひろば関連の事業収入がわずかだが前年比マイナスになった。</p>
課題	<p>①県民のニーズにあったさまざまな企画を実施し、有料入館者層にむけ効果的に情報発信することにより、観覧料収入の増加を図る。          ②ゆめ・体験ひろばの体験アイテムやプログラムを更新することで、新規利用者を開拓するとともに、リピーターのつなぎ止めを図る。          ③顧客満足度の指数に満足することなく、新たな手法等により県民ニーズのさらなる把握に努める。          ④生涯学習の中核施設として、市町村や教育機関の事業、ボランティアや友の会の活動について積極的な支援を図る。</p>
対応の方向	<p>①事業趣旨に合致した関係機関と連携し情報発信性を高めるとともに、ターゲットを明確にした効率的広報活動の強化を図る。          ②展示と関連した体験アイテムやプログラムを開発することにより、入館者のゆめ・体験ひろばと展示室の相互利用を促進する。          ③観覧者アンケートの回収率を高めるとともに、対面式アンケートを実施など、多角的手法で県民ニーズの掘り起こしに努める。          ④市町村や大学・高校も含めた教育機関との事業連携促進と、友の会等のマンパワーを活用した世代間交流事業の積極展開を図る。</p>

### 基礎データ

職員数 (学芸員数)	37人 (26人)	総予算額 (人件費を除く)	103,616千円	職員1人あたりの県民人口	19.2万人
収蔵資料点数	113,356点	事業経費 (上記の内数)	103,616千円	利用者1人あたりのコスト (平成19年度)	790円
平成19年度 収蔵資料点数	81点	特定財源予算額 うち観覧料収入	13,346千円 (8,434千円)	県民人口に対する利用者の 割合 (平成19年度)	1.84%

(注) 平成20年4月1日現在の埼玉県推計人口は7,116,183人である。

博物館協議会の意見とその対応

全館共通の意見

指摘事項	指摘意見	意見への対応
評価項目全体に係る事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値の設定根拠を各館で統一すべき</li> <li>・目標値の設定根拠を特記事項に記載すべき</li> <li>・自己評価結果について協議会で再評価すべき</li> <li>・総合評価の達成度は%表記にすべき</li> <li>・評価シートに基づく評価、課題、対応の方向の表記は整合性のあるもので、県民にわかりやすいものとすべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・21年度評価シートで改善</li> <li>・21年度評価シートで改善</li> <li>・21年度評価シートで改善</li> <li>・20年度評価シートから改善</li> <li>・21年度評価シートから改善</li> </ul>
個別項目に係る事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「館有資料の充実」の数値目標は数量だけでなく質も重要なので協議会に評価を委ねてはどうか</li> <li>・「写真原板利用」を「資料特別利用」に変更し、資料撮影点数、資料熟覧点数も加えてはどうか</li> <li>・「データベースの利用状況」が毎年「構築中」というのは如何なものか、「外部からの要請等による利用条項」の項目から分離し、実情に合わせた数値が記入出来るように工夫したらどうか</li> <li>・「総合的な満足度」ではアンケートの回収件数を増やすことが必要である。また、アンケートの取り方も工夫が必要である</li> <li>・「年間の総入館者数」は「一日平均入館者数」に変更すべきである</li> <li>・「ホームページ」の項目を「広報」に変更し、指標にマスコミ等への情報発信件数等を目標値とした「広報」を新たに加えてはどうか</li> <li>・「ボランティアの活動」の特記事項には活動日数や活動内容を明記すべきである</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・21年度評価シートから運用</li> <li>・21年度評価シートから改善</li> <li>・21年度評価シートから改善</li> <li>・戦略的広報ワーキンググループで検討のうえ実施</li> <li>・21年度評価シートから改善</li> <li>・21年度評価シートから改善</li> <li>・20年度評価シートから改善</li> </ul>
委員会評価意見の公開について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価する点や問題点をまとめ、委員会評価としてHP上で県民等に公開すべきである</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館評価ワーキンググループで検討の上実施</li> </ul>

個別館への意見

歴史と民俗の博物館

指摘事項	指摘意見	意見への対応
10 企画展示の総観覧者数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度またぎの特展がないから目標値を下回ったというが、前もってわかっているのだから、最初から目標値を下げるべきではないか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度までに個別事情や特殊要因があった場合の目標値については、指摘のとおり柔軟に対応したい</li> </ul>
13 インターネットでの情報利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値が過去3年の最高値とあるが、この年は覚園寺問題があったときのもので、極めて特殊であり、また事件でも起こさない限り超えられないのではないか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特殊要因に起因する目標値については、設定数値を下げることも含め柔軟に対応したい</li> </ul>